

編集 後記

新年度が始まりひと月が経ち、緑鮮やかな季節となりました。

本号では4編の原著を掲載しています。1編目は沖縄県農村地域の自立高齢者において、主観的幸福感が3年後の生存を予測したこと、4編目は東京都の民生委員の活動継続意欲が、やりがい等の心理社会的恩恵や、役割の曖昧さの軽減により高まることを報告しています。超高齢社会となり、高齢者を含む住民が地域で心身ともに健やかに過ごせる社会の構築が望まれています。この2編は、高齢者にとっても、地域を支える民生委員にとっても、心の健康度や充足感が、生活や地域活動の原動力となることを示唆する内容であり、健康長寿社会を構築する上での重要な手掛かりを示す意義のある論文と言えます。

2編目は北海道の二次医療圏を単位とし、死亡率、栄養摂取状況の地域差に関する検討を行っています。既存の道民調査データを活用することで、地域の健康格差を縮小させる要因に迫っています。広大な面積をもつ北海道の21二次医療圏それぞれで、国民健康・栄養調査と同様の方法により栄養調査が実施されたことからすると、公衆衛生に対する多くの人の理解と協力により得られた貴重なデータであると考えられます。

3編目の本人通知制度の実態と住民票を用いた予後調査への影響を検討した論文では、コホート研究における研究対象者の生存・死亡に関する手続きの現状が分かりやすく記述されています。これらの手続きが自治体により異なる場合があることを、研究者も経験的には知っていても、他の自治体での対応を知る機会は少ないと思われます。全国1741地区の市町村での集計結果から学ぶことは多く、非常に参考になります。

4編それぞれの研究の着眼点は異なりますが、日本の公衆衛生が行政や地域住民により支えられていることを感じさせる内容であり、どれも読みごたえがある論文です。

皆様のご投稿をお待ちしています。 (大塚 礼)

次号予告 (第65巻・第6号)

特別論文

公衆衛生の黎明期からこれまでの歩み
.....多田羅浩三

原著

介護福祉士のストレス反応：生理学的手法による評価.....豊島裕子
医療機関を活動の場とするがんピアサポーターへ行われている支援と必要としている支援
.....吉田由美, 他

資料

加齢性難聴の早期発見に向けた指こすり・指タップ音聴取検査の妥当性の検討.....佐野智子, 他
女子大学生におけるパーソナリティ特性とサプリメント利用行動.....佐藤陽子, 他